

城下町松江の歴史を探しに行こう!!

歴史探索

大手前通り

マップ



島根県
松江市

平成30(2018)年7月作成

はじめに

大手前通り（城山北公園線）は、松江城の大手前から東に延びる延長約1kmの都市計画道路です。平成15(2003)年3月に都市計画決定され、平成30(2018)年8月には広い歩道を備えた4車線道路として完成します。

大手前通りでは、発掘調査により明らかになった城下町松江の歴史を後世に伝えるため、歴史案内看板を設置しました。

この「大手前通り歴史探索マップ」を手に大手前通りを歩きながら、歴史に触れて頂ければ幸いです。

城下町松江の成り立ち 大手前通り周辺地区について

城下町松江は、江戸時代初期に堀尾氏によって城地が選定され、造成された計画都市であり、大手前通り周辺地区は松江藩の家老などの屋敷が建ち並ぶ町として整備されました。

平成18(2006)年から始まった大手前通りの拡幅工事にともなう発掘調査により、当時の人々の暮らしぶり等が明らかになりました。

江戸時代初期(堀尾期)の松江城下町



『堀尾期松江城下町絵図』（島根大学附属図書館蔵）

現在の松江城下町



どの殿町 母衣町とともに「城郭内」を表す「内山下」と呼ばれ、家老などの家臣が住む町でした。

ほろまち母衣町 母衣とは、身分の高い騎馬武者がつける広い布です。町名はこれに由来しているといわれています。

よなごまち米子町 伯耆国米子方面から移住した職人が住む町屋が配置され、米子町と呼ばれるようになったといわれています。

みなみたまち南田町 沼地や湿地を埋め立てて造ったことに由来して南田町と呼ばれています。南田町もまた家臣の住む町でした。

大手前通りの特徴

城下町の成り立ちを紹介する歴史案内看板

城下町松江の遺構は、中心市街地であったため開発により大部分が消滅していると考えられてきました。

しかし、江戸時代から現代までの間に行われた開発が盛土によるものであったため、当時の地層が良好な状態で残っていることが分かりました。発掘調査で明らかになった当時の城下町の様子や人々の暮らしぶりを歴史案内看板で紹介しています。

(歴史案内看板の詳しい内容は中面をご覧ください)



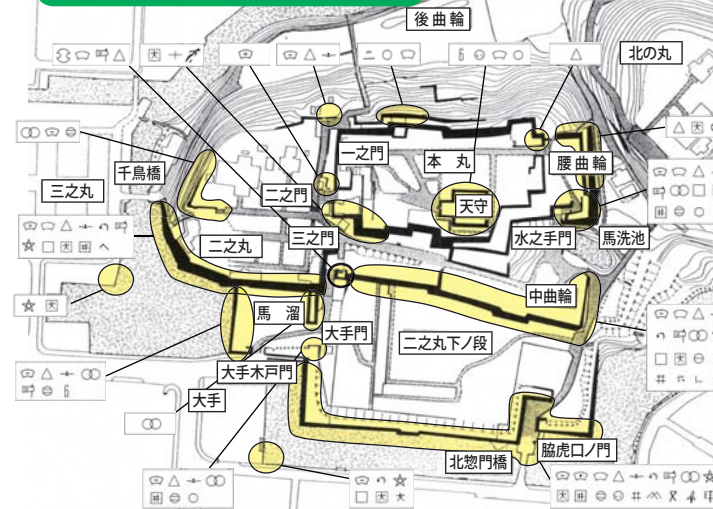
松江城の石垣の刻印

発掘調査により出土した石材の中から「輪違紋」と呼ばれる刻印のある石材が発見されました。そもそも刻印は築城の際、石垣に家臣などが自らの家紋を刻んだものとされており、松江城内の石垣では堀尾氏の分銅紋の他、刻印の入ったたくさんの石を見つけることができます。



松江城石垣の刻印
分銅紋(ふんどうもん)

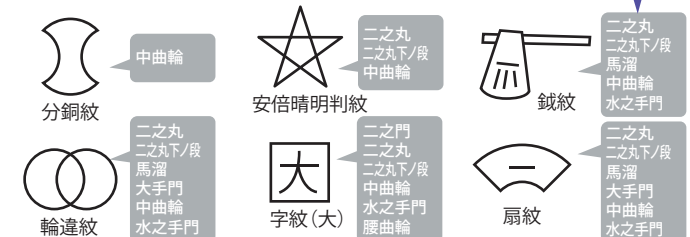
松江城で刻印を確認できる場所



出典：「史跡松江城保存活用計画」2017年 松江市

ポケットパークの刻印

大手前通りでは、道路利用者の皆さまの休憩や憩いの場として5カ所のポケットパークを整備しました。ポケットパークには6種類の刻印(レプリカ)があります。また、実際に出土した刻印のある石を展示しているところもあります。



大手前通りの シンボルツリー



松江のなんじゃもんじゃ

松江のなんじゃもんじゃ(別名:ヒトツバタゴ)は、松江市出身の杉坂治さんが、現在の韓国光州市で自生樹から採種し育てたなんじゃもんじゃの苗木を昭和15(1940)年に故郷松江市へ寄贈されたものです。

杉坂さんは、朝鮮半島に渡り長年造林行政に携わっていましたが、定年退官にあたり、なんじゃもんじゃをはじめ現地の珍しい木々をたくさん寄贈されました。

なんじゃもんじゃは、北東アジアのごく限られた地に隔離分布する珍しい木で、日本では長崎県対馬と岐阜県など東濃地方だけに自生しています。

松江のなんじゃもんじゃは、東濃地方のものより花びらが長く繊細であることなどの特徴があり、ふさふさとした花に覆われた樹相の美しさ、豊かさは格別なものがあります。

大手前通りでは、この松江のなんじゃもんじゃを街路樹やポケットパークのシンボルツリーとして植樹しています。

松江城二之丸のなんじゃもんじゃ
ゴールデンウィークには美しい花を咲かせます



大手前通りのなんじゃもんじゃ

松江市役所 歴史まちづくり部 都市政策課

☎ 0852(55)5373

松江県土整備事務所 都市整備課

☎ 0852(32)5755



大手前通り 歴史探索マップ



ベンチや木陰のある 街角のほっとスペース 大手前通りのポケットパーク

シンボルトリーなんじゃもんじゃ
なんじゃもんじゃの枝が張り、葉が茂ると一休みにピッタリな木陰ができます。



ベンチやスツールなどの休憩スペース
5カ所のポケットパークには、スツールやベンチが置いてあります。歩き疲れたら一休みできるやさしい空間です。

現地発生材や松江ならではの石材を活用
発掘調査の際には、大海崎石、島石、来待石といった松江周辺で採掘される多くの石材が出土しました。スツールや植栽柵に活用しています。

大手前通りのデザインポスト
大手前通りには4基のポストが設置されています。道路の整備とあわせて、大手前通りにちなんだデザインに変わりました。

お城の見えるスポット
大手前からまっすぐ伸びる大手前通りには、松江城の天守閣が見えるスポットがあります。マークのある場所から、お城の方向を眺めてみてください。



歴史をめぐって歩いてみよう！ 大手前通りの歴史案内看板

- 「輪違紋」が刻まれた石**
刻印のある石が、どうして大手前通りで見つかったのか…その謎に迫ります。
- 大手前通りに残る江戸時代の石積**
江戸時代の武士は、見栄っ張り!?水路の作り方から、当時の人々の工夫が分かります。
- 明治の面影**
裁判所の石垣と松江城の石垣。同じ石垣でも積み方がいろいろあります。
- 城下町の造成と外堀としての米子川**
城下町以前はどんな場所だったのか、発掘調査で見つかった足跡から分かりました。
- 職人の町**
城下町に暮らす職人さんたちは、色々な道具を使っていた。発掘された当時の道具を紹介しています。
- 実戦を想定した城下町**
西日本ではあまり発見されてない「障子堀」は、実戦に備えた城下町の工夫です。
- 大橋茂右衛門と与力**
鉄球や銭貨が何に使われていたのか…当時の武士の暮らしぶりが分かります。
- 城下町の東端**
松江城天守閣から1.2kmの距離にある田町川が、城下町の東端であることが分かりました。当時の絵図と見比べてみてください。

凡例	
	駐車場・トイレ・バス停
	おもてなし駐車場 (土日祝無料開放)
	有料駐車場
	トイレ
	バス停・バス路線
施設・歴史資源など	
	歴史案内看板
	記念碑・歴史資源等
	主なまちあるき施設
※資料：建物に関する記載=歴史と里川のまち城東パンフレット	
ポケットパーク・公園・緑地	
	大手前通り沿道ポケットパーク
	公園・緑地

本図は、平成21(2009)年作成の松江圏都市計画図1:2,500を複製したものである。